

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第108回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第42回総会議事録
- ◇日本惑星科学会賛助会員名簿
- ◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

◇日本惑星科学会第108回運営委員会議事録

日 時：2014年9月24日(水)18：30－21：15

場 所：東北大学片平キャンパス 東北大学本部棟4 施設部 3階会議室

出 席：田近 英一，渡邊 誠一郎，倉本 圭，林 祥介，永原 裕子，佐々木 晶，荒川 政彦，小林 直樹，
中本 泰史，はしもとじょーじ，千秋 博紀，橘 省吾，生駒 大洋，中村 智樹，平田 成，荒井 朋子，
並木 則行，城野 信一，井田 茂(早退)，中村 昭子，杉田 精司(ともに，学会賞選考委員のため遅刻)
欠 席：渡部 潤一，藤本 正樹，小久保 英一郎(ともに，議長委任)

1. 中間報告(荒井財務専門委員長)

増税により支出に若干の増加があったが，収入支出ともにおおむね予算通りである。

2. 予算案(荒井財務専門委員長)

○一般会計

[収入]

- ・会費収入は例年通り
- ・賛助会員5社. 350,000円
- ・前受金(学生のダブルクリック問題)
- ・学会誌出版事業費
 - －例年減少
 - －今年は少なめに10万円と見積もり
- ・秋季講演会参加費
 - －40万円の収入を見込んだ

[支出]

- ・学会誌出版・広報事業
 - －遊星人の要望を100%考慮
 - －原稿起こし・カラーページ費用は40万円とし，昨年(20万円)の倍とした。
 - －EPS分担金は10万円で，今年の半分とした。
- ※特に新たな支出があるわけではないが，徐々に赤字になりつつある。

[質疑・コメント]

質問(林会員)：サーバー基礎開発費は積み立てておかなくてよいのか？

回答(千秋情報化専門委員長)：

- ・これまでの支出は立ち上げにかかった費用を4年間で分割したもの、それを完済しただけ
- ・現行OSのサポート期間は16年度末で切れるので、OSを入れ替える必要があり、そのときに、まとまった費用が必要となる可能性があり、日程は未定
- ・現在、OSについては幾つかのアイデアがあり、議論中である。まだ具体化されていないので、予算を定量化できていない。
- ・あとでメール審議する。
- ・最大でこれまでに払ってた額とほぼ同額(30数万×数年)
 - 財務として対応するように(会長)

質問(はしもと会員)：秋季講演会の事業収入の減少はなにか？

収入=支出とすべきなので、参加費を値上げすべきではないか？

回答(田近会長)：値上げはやむを得ない。学生については参加費は据え置き(2000円)で、一般の参加費を4000円(1000円アップ)にする。

- 運営委員会として承認した。
- 秋季講演会の予算が20万円増

質問(渡邊会員)：カラーページ費用が40万円というのは多すぎるのでは？

回答(はしもと編集専門委員長)：30万円で妥協する。

○学会賞特別会計

問題なく回っている。

3. 災害に伴う会費免除(財務専門委員長)

現時点で対象者なし

4. 入退会について(平田総務専門委員長)

2014年9月23日現在

正会員646名(内学生108名)

- ・2014年度入会30名
- ・2014年度退会予定8名

賛助会員5件

購読会員・名誉会員

- ・一般購読数 5
- ・法人購読数 7
- ・名誉法人数 8

5. 選挙管理委員会(平田総務専門委員長)

会則第3章および役員選挙規定に従って通常通りに行う。

- 9月24日 選挙管理委員会発足
- 10月29日 会長候補者の推薦・募集開始
- 11月15日 同終了
- 11月19日 役員選挙公示・投票受付開始
- 12月9日 同終了
- 12月17日 会計幹事候補者公示・信任投票受付開始

1月15日 同終了

6. その他総務からの案件(平田総務専門委員長)

第42回総会の議長として谷川享行会員を、書記として長岡央会員が推薦され、運営委員会はそれを承認した。

7. 遊星人(はしもと編集専門委員長)

問題なく発行中である

8. 2014年秋季講演会報告(中村2014年秋季講演会組織委員長)

- ・講演会参加者数(事前登録)は190名。これに当日参加登録者が加わる。発表は186件あった。
- ・会場費が無料であったことや、LOCのボランティアのおかげで、赤字なく終わった。
- ・一般講演会は満席で、大成功に終わった。

9. 来年度秋季講演(井田2015年秋季講演会組織委員長)

- ・会場(ELSI新棟)はまだできていないが、来年10月には間に合う予定である。
- ・日程として10月7・8・9日に講演会、10日に一般講演会を予定しているという提案が井田委員長からあった。しかし、三連休にかかるため、10月14・15・16日講習会、17日に一般講演会という予定にすべきという意見が出た。東工大の学園祭の予定を調べて、最終的にELSIが結論を出すことに決まった。

10. 日本地球惑星科学連合報告(永原日本地球惑星科学連合連携専門委員長)

- ・連合大会2015のセッション提案がすでに始まっている
 - －関連分野を統合し、パラレルセッションをなくす方針。ただし、惑星科学にはほぼ無関係。
 - －5月24日～28日に幕張メッセで開催予定
 - －JpGUの国際化にともなって、国際シンポジウムを計画中。英語セッションを増やしたい。
- ・西田先生が連合に寄付金。それに基づいて西田賞を設立(締切10月15日)。惑星科学会としても対応すべき。
- ・PEPS特別セッション=複数にまたがるセッション。ノルマはPEPSに投稿すること。10月24日まで。
- ・惑星科学会内に連合連携組織委員長という委員をおく必要性について、次期会長選出時に議論することになった。

11. 最優秀発表賞受賞者決定(佐伯学会賞選考委員長)

- ・松野淳也(京都大学)に決定した。
- ・例年議長発表だが、今回は委員長が発表するようにする。→承認

12. CiNiサービス中止に伴う予稿集電子版の取り扱いについて(中村行事部会長)

- ・再来年にはCiNiに予稿集をアップできなくなる。
- ・3つの方向性

- 1) J-Stage Lite への移行(現在構築中)
- 2) リポジトリを使う
- 3) 商業ベースに乗る

があるが、可能性1)を行事部会で検討中。しばらくは様子を見る。J-Stage Lite が使いにくかったら、改めて検討することにする。

13. 今後のサーバーの開発方針について(千秋情報化専門委員長)

上で報告した通り。それに加えて、2017年3月に現行のOSサポートが終了。2016年にサーバー移行の予算立てが必要。

14. 「来る10年」検討状況の報告(並木将来探査検討グループ長)

パブコメの集計結果を総会で報告する。先行してその内容を紹介。

コメント1

- ・学会外での議論も進んでいる状況であり、学会内部の活動としてのこの報告をどのタイミングで行うのが難しく、見計らっているところ(渡邊)

・月：理学が先行，火星・トロヤ：工学が先行，カウンターパート側の検討をどう進めるか(渡邊)
コメント2

- ・ベネトレータ実証ミッションのイプシロン3号機への提案は残念ながら採択されず(小林)
- ・採択されたのは工学提案のSLIM(月着陸)とDESTINY(ラクランジュ+ α (小惑星?))(渡邊)
- ・提案に関わる反省報告をポスター発表している(小林)

15. 惑星科学教育研究コンソーシアム構想について(倉本副会長)

- ・「太陽系生命前駆環境の実証的解明のための統合研究プログラム」の検討
- ・文科省から公募が出た．．．宇宙航空科学技術推進委託費

- (1) 実践的若手人材育成プログラム(年度上限1000万円)
- (2) 宇宙科学研究拠点形成プログラム(年度上限3500万円)

どちらも10月10日メ切

- ・運営委員会前日に会長他数名で会合を開き議論した。
 - 業界全体のために提案を行うことを確認した。
 - (2)の予想採択数は4件で，工学2件+理学2件と考えると，惑星に回る可能性があるのは1件。したがって，惑星から1件を提案することにした。
 - (1)にも1件を提案することにした。
 - (1)は神戸中心(リーダー：林会員)，(2)は東大中心(リーダー：杉田会員)

(2)についてのプラン(杉田会員)

- ・最終的な目標は，惑星探査を強力に進めていくための足腰を鍛える。
 - ・早めに成果を出せることが文科省から求められている(利用促進)
 - ・はやぶさ2 ONCデータ解析を核に，「ひさき」データ解析や機器開発等も入れて構築する
- コメント(林会員)：コンソーシアムという枠組みで行っていることを忘れずに。

(1)についてのプラン(林会員)

- ・アウトリーチに近い公募をどう解釈するかがポイント
- ・昨今の問題を鑑み(学生の減少，レベル減退)，エリートコースに対応するサマースクールを行うことを検討中。
 - フロンティアセミナーやプラネタリースクール，探査実習など
 - ELSI等に参加をお願いする。

16. その他

○政治レベルでの宇宙政策の現状について説明(田近会長)

- ・宇宙政策委員会が実働に乏しいため，委員会内部に宇宙政策部会(正しくは基本政策部会)が設置され，中長期計画を検討することになった
 - 宇宙政策，宇宙基本法の見直し
 - コミュニティに対しての要求：向こう10年の工程表
 - 宇宙科学・探査部会も近々開催(そこで具体的なプランが策定される?)
- ※永原会員・渡邊会員から背景補足があった。

◇日本惑星科学会第42回総会議事録

日 時：9月25日(月)16：30-17：20

場 所：東北大学片平キャンパス さくらホール 会議室

〒 980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

正 会 員：646

定 足 数：65

参加人数：107名(開会時) (これに加えて非会員の傍聴者2名), 121名(議事3.1採択時), 122名(議事3.2採択時)

委 任 状：117通(議長:115通, 林 祥介会員:1通, 田近 英一会員:1通. ただし内2通分は提出者が総会に参加したため無効)

1. 開会宣言

平田総務専門委員長が開会を宣言.

2. 議長団選出

運営委員会からの推薦で議長に谷川享行会員, 書記に長岡央会員が選出された.

3. 議 事

3.1. 第12期下期(2014年度)中間報告

○会計報告(荒井財務専門委員長)

荒井財務委員長より会計の中間報告が行われた. 収入・支出共に順調である. 消費税増税のため各項目で支出は増えたが, とくに問題なし.

○各種専門委員会報告(各専門委員長)

なし

○質疑応答

なし

○採択

第12期下期活動報告の採択が行われ, 賛成: 121, 反対: 0, 保留: 0により採択

3.2. 第13期上期(2015年度)予算案

○説明(荒井財務専門委員長)

・収入: 例年通り.

・支出: 原稿起こし, カラーページ費用を増やした. 「来る10年」報告書印刷費を計上. その他はほぼ例年通りであるが, 消費税増税により支出が増えている.

○質疑応答

・収入の会員費はどれだけの回収率か? また回収率を上げる努力は?

・一割程度が未回収, 3年待つ, それでもだめなのは2, 3人ほどいる. その場合は除名処分. そうならないように周りに声がけをお願いします(荒井)

・予稿集は紙では印刷しないのか? (JAXA・岡田)

・今年度から予行集はPDF化, そのため予稿集は刷らない(荒井)

・2015年度はサーバー開発費分の支払いが終了した分減っているのに赤字になるのはなぜか?

・増税分のマイナスが20万, 印刷費関連が20万くらい. 会費収入を少なめに見積もる傾向があるので, 最終

的には特に心配はないとおもう(荒井)

- ・会費収入は実際の会員数をかけて算出するべきでは?(名大・渡邊)
- ・EPS分担金, 学会賞の予算の変動分はなぜ?(JAXA・岩田)
- ・EPS分担金は1年で10万円, 前年度分を2月に今年度分を5月に支出, 今年度は合わせて20万円を計上. 来年は例年通り10万円. 学会賞は2013年度まではプール金があったのでそこから, 今年はそれがないため支出が増えている(荒井)
- ・賞金は寄付金によっている(荒井)

○採択

第13期上期(2015年度)予算案の採択が行われ, 賛成: 122, 反対: 0, 保留: 0により採択された.

4. 報告事項

4.1. 自然災害に伴う会費免除措置について(荒井財務専門委員長)

- ・今年度自然災害にあった会員は来年度の会費免除, 申請は1月中旬頃までに(荒井)

4.2. 学会賞授賞式: 2013年度最優秀研究者賞および2014年度最優秀発表賞(司会: 議長)

- ・東工大の奥住聡会員に対する2013年度最優秀研究者賞授賞式は, 総会に続く特別講演のセッション冒頭に行われた.

○2014年度最優秀発表賞授賞式

- ・佐伯学会賞選考委員長から, 2014年度最優秀発表賞の選考結果が発表された
- ・受賞者及びタイトル: 松野淳也会員「三次元観察と室内実験から探るGEMSの起源」
- ・佐伯学会賞選考委員長より, 選考の経緯と講評の説明があった. 来年度も実施の予定であるが, 募集要項改訂を検討しているとのこと.
- ・田近会長より表彰状及び副賞の贈呈が行われ, 受賞者挨拶があった.

4.3. 2014年秋季講演会の報告(中村2014年秋季講演会組織委員長)

○中村2014年組織委員長より報告

- ・一般講演会: 参加者180名来場
- ・参加者: 190+32名
- ・今回予稿集はPDF化し印刷物はなし, 予稿集代金での収入はなくなる. その分会費を値上げ. 結果黒字となった.

4.4. 2015年秋季講演会の案内(中本2015年秋季講演会組織委員)

○中本秋期講演会委員長から報告

- ・2015年は東京工業大学の地球生命研究所にて開催.
- ・2015年10月14-16日学術講演, 17日一般講演(仮)

4.5. 「来る10年」検討状況の報告(並木将来探査検討グループ長)

○並木グループ長の報告

- ・第三段階の評価終了.
- ・21件の評価で評価者は14名. 火星探査8件, 月年代8件, トロヤ群5件.
- ・火星生命探査: 生命探査はあたりはずれがおおきい. 工学と理学のミッションで工学は検討が進んでいるが, 理学は少し足りないのではという見方. 資金については工学の計画は明確だが, 理学は不透明. システムについては詳しいコメントは特になし. スケジュールについては意見が分かれる. 体制についてはポジティブな評価.
- ・月年代学: 科学目標の重要性については重要なミッションという位置づけ. 技術の見方についてはラボ実験から実際の観測に適用させるのはまだ難しいという見解. 資金については, 年代測定だけでは中型ミ

ッションとしては高い。システムについては検討課題あり。スケジュールについてはまだうまくいっていない。体制については工学との連携が必要。

- ・ トロヤ群：理学ミッションとして成果がでるまでの期間が長い。技術については工学での検討は進んでいる。資金面は難しい。スケジュール面は漠然と可能なのではという評価。体制は理学側が足りない。
- ・ これらの検討については遊星人にまとめ、1月頃までに投稿する。
- ・ 質問コメント：なし

○宇宙基本計画について

- ・ 予算を確保するために、計画を進めていかななくては。
- ・ 惑星探査についても対象を決めなさいという段階にきている。月なのか火星なのか、小天体なのか。
- ・ コミュニティーで考えないといけない。
- ・ ぜひ懇親会で率直な意見を聞かせてほしい、意見を積極的にかわしましょう(名大・渡邊)

4.6. 役員選挙の案内(平田総務専門委員長)

- ・ 2年で一期、新たに13期の役員選挙を実施。
- ・ 選挙管理委員会を組織した。
- ・ 質問コメント：なし

4.7. その他

なし

5. 議長団解任

6. 閉会宣言

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

2014年12月25日までに、賛助会員として本学会にご協力下さった団体は以下の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

アメテック株式会社カメカ事業部
株式会社五藤光学研究所
有限会社テラパブ
株式会社ニュートンプレス
フジカット有限会社

◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

(a)場所, (b)主催者, (c)ウェブページ/連絡先など.
転記ミス, 原稿作成後に変更等があるかもしれません. 各自でご確認ください.

2015/05

5/24-5/28 日本地球惑星科学連合2015年大会

- (a)幕張メッセ国際会議場, 千葉県千葉市
 - (b)公益社団法人日本地球惑星科学連合
 - (c)<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>
-

2015/07

7/4-7/10 第30回宇宙技術および科学の国際シンポジウム (ISTS)

- (a)神戸コンベンションセンター, 兵庫県神戸市
- (b)第30回宇宙技術および科学の国際シンポジウム組織委員会, 日本航空宇宙学会
- (c)<http://www.ists.or.jp/2015/>